サマーキャンプ2022（注：教会報9月号から抜粋、編集）

鈴木　郁子

13 年程前から続いている小田原・平塚・大磯教会恒例のサマーキャンプは、新型コロナウィルス感染拡大により、昨年一昨年と行う事が出来ませんでした。今夏も難しいと諦めていたところ、平塚教会の信徒の方の結婚式が大磯教会で行われるという情報がありました。新郎の方は毎年キャンプに参加し、思い出深い大磯教会で結婚式を挙げたいと思ったと伺いました。

子供たちにとっては「2022年の夏」というだけではなく、「〇〇年生の夏」は一生に一度だけ。成人しても心に残るサマーキャンプを中断させたくない。この思いから私達はコロナが少し落ち着いていた時期でもあったので、両教会に内容を縮小して行わないかと声をかけました。しかし第7波の到来で合同は中止になり、7月30日に大磯の子供たちで花火大会を行う事にしました。

当日は合わせて総勢15人が集まりました。夜の教会の庭に久しぶりに歓声が響きました。花火の前に聖堂で、今置かれている自分達の日々の生活に感謝し、世界の人達にも目が向けられるような人になれるようにと祈りました。静かな聖堂でのひと時を過ごすことができました。このような時期にあっても行動に移せたことに感謝します。

参加した子供たちに感想を書いてもらいました（次頁）。

◆教会はコロナでキャンプが日帰りになって、日帰りが花火大会になったけど、キャンプができなくても、みんなと一緒に遊ぶことじたいができたから、すごく良かった。みんなもとってもよい思い出だったとおもう。

◆教会の花火はスパークも何種類もあったし、流星群みたいなものもあって、すごくきれいでした。そしてラッキーなことがありました。線香花火を4・5回落とさなかったのがうれしかったです。

◆夏の始まりの時いつも日本に行きます。だけどコロナの始まりの時日本に行けませんでした。今は来れたけどあんまりやりたいことができませんでした。だけどみんなと花火ができて楽しいです。ありがとうございました。

◆今年は日本に来ていろいろなことが変わっていると思いました。大磯町が小さく見えたり、小学生の時怖くて通りたくなかった道も今は笑いながら通れます。でもだんだん大磯で過ごすうちに、町が変わっているのではなく、自分の方だと気が付きました。これに気付いたのはチャプレンが説教をしていた時でした。小中学生だった頃は教会が退屈でした。座ったり立ったりエネルギーがたくさんあった僕は耐えられませんでした。でも今年来て「あれ？教会は覚えているよりおもしろい」と思いました。昔嫌いだった説教が今探し求めている答えを教えてくれます。今年はいろいろ自分のことがわかりました。